

第三、五十三糎(二十吋)魚雷ノ由來及初期ノ進歩

之ヨリ先キ英國ニ於テハ明治三十九年頃已ニ二十一吋魚雷ヲ採用シ四十年ニハ噴水(冷水)加熱裝置ヲ之ニ應用シ翌四十一年射程七〇〇〇碼三十一節ノ成績ヲ擧ゲタリ乃チ上記ノ實驗ニヨリ從來ノ約二、三〇〇米ノ氣室ヲ約三米ニ延長シ魚雷全長ヲ約六、七米トナセシ結果一〇〇〇碼二十八節以上ノ能力ヲ擧ゲト先ヅ宿昔ノ希望ヲ達シ當時列國ニ比シ斬然頭角ヲ顯ハセリ而シテ米獨海軍等モ又次デ五十三糎(獨國ハ五〇糎)魚雷ヲ採用スルノ狀況ナリシカバ我國ニテハ先ニ保社ヨリ購入セル魚雷ニ模倣シ四十二年ニ至リ始メテ五十三糎魚雷ヲ製作シ吳ニ於テ實驗ノ結果六千米三十節ノ成績ヲ得タリ之レ我海軍ニ於ケル五十三糎魚雷ノ嚆矢ニシテ所謂四三式五十三糎魚雷ノ母體ナリキ越ヘテ翌四十四年ニ

至リ始メテ噴水加熱装置附魚雷ヲ試製シ種々實驗ノ結果一萬米三十三節五六ノ優秀ナル成績ヲ擧ゲ其ノ能力ハ寧ロ英國海軍魚雷ヲ凌駕シ世界的優秀記録ヲ作りシガ多數製造ノ結果當分一萬米二十九節ヲ標準能力タラシメタリ

(備考) 一、四四式五十三糎魚雷ノ全般の計畫ニ關シテハ海軍少佐油谷堅藏、加熱噴水装置ニ就テハ海軍技師伊藤儀及同津田瑛三郎ノ努力ニ負フ處尠ナカラズ

二、五十三糎魚雷ノ竣工ニ依リ差當リ之ガ實地的機能特ニ水中發射管ヨリスル發射狀態ヲ實驗スルノ目的ヲ以テ四十四年不取敢安式五十三糎水中發射管ヲ軍艦生駒ニ裝備シ實驗發射ヲ行ヒ其ノ成績概ネ良好ナルヲ確メ得タリ
尙魚雷ノ進歩ニ伴ヒ發射機縱舵機等ニ於テモ獨自のニ又ハ一部ノ模倣ニ依リ概ネ魚雷ニ雁行シ進歩ヲ見シガ其ノ詳細ニ就テハ後記スルガ如シ

斯クテ大正元年(四十)本改良五十三糎魚雷ヲ正式ニ兵器ニ採用セリ四四式五十三糎魚雷即チ之ナリ參考ノ爲大正二、三年頃ニ於ケル列國魚雷能力ヲ示セバ左ノ如シ

國別	要目	射程 (米)	速力 (節)	炸藥量 (尅)	記 事
日		一〇〇〇〇	二九、	一三〇	何レモ五十三糎徑魚雷ナリ 但獨ノミハ五〇糎トス 米海軍ノモノハ試製魚雷トス
英		九一〇〇	二九、	一二七	
獨		九一五〇	二八、五	一六〇	
米		六五〇〇	二七、		

四四式五十三糎魚雷ハ爾後ノ成果ニ鑑ミ英式傘型弁竝ニ排氣法ノ利用ヲ斷行シ一ニハ魚雷能力ノ増進ニ資スルト共ニ亦發射回數ヲ重ヌルニ從ヒ射程速度ノ變化及減少ノ重大ナル原因ノ一ヲ除キ以テ在來ノ如ク艦艇ニ於テ魚雷ノ能力ヲ確ムル爲教育訓練期間ノ一半ヲ充當セザルベカラザリシ缺陷ヲ可及的芟除セムコトヲ期セリ